

老人ホームにおけるおしゃれ意識およびアクティビティケアの調査研究  
○ 小林 茂雄 市川 淳子  
(共立女大)

〈目的〉老人ホームでの生活上の問題に焦点をあて、入居者の生きがい観や情動の活性化、衣生活のあり方などについて、施設側の人々がどのように考え、また実状はどうかの調査結果を第49回大会において報告した。本研究はこの報告を発展させたものであり、化粧行動、おしゃれ意識、コミュニケーションなどについて、アンケート調査をもとに考察した。

〈方法〉入居者の介護程度により、①特別養護老人ホーム67施設、②養護老人ホーム66施設、③軽費老人ホーム67施設の合計200施設に対して、1999年11月初旬に郵送調査法によるアンケート調査を実施した。調査票の回収率は、特別養護56.7%、養護77.2%、軽費80.5%であった。なお、前回の調査で化粧行動、ファッションショーを実施している施設はできるだけ加えるように配慮した。調査内容は、①生きがいを与えるための催し、②趣味活動、③化粧行動、④ファッションショー、⑤コミュニケーション、⑥住居環境、⑦おしゃれ意識などである。

〈結果〉興味のあるいくつかの点について述べる。老人ホーム入居者のおしゃれ意識は、軽費・養護は特別養護に比べて高いが、特別養護でもおしゃれに関心ある人もいるの回答が65.8%を占めた。おしゃれに関心をもつことは、若々しくなる、明るくなる、精神的な衰えを防ぐと、その効果を認めている。化粧行動を取り入れた理由は、上位から生活に変化を持たせるため、おしゃれに興味をもたせるためであり、また、明るくなった、おしゃれに関心を持つようになったと、その効果を認めている。ファッションショーについても、情動の活性化の効果は認めているが、実施率はまだ低いといえる。